

今日のみことば

□ 3月5日(日) ロマ 14章

ここには弱い兄弟に対する態度が記されている。何事においても自由ではあるが、仲間のキリスト者に負担をかけるよりも自分の自由を制限する方がよい。

□ 3月6日(月) ロマ 15章

キリスト者は自分を喜ばすべきではない。キリスト者の間の和は、「自分の権利」よりもはるかに重要である。私たちは真の一致を推進するために全力を尽くさねばならない。

□ 3月7日(火) ロマ 16章

主にある交わりの美しさを教えられる。キリストにあって結ばれた交わりは、人間の深いところにおいて結ばれた交わりでどんな状況になろうとも破れることはない。神によるからです

□ 3月8日(水) コリント一 1章

コリント教会の有能な人たちはそれぞれの思いを主張して分裂気味であった教会に、パウロは、キリストの中において一つの家族であり、大事なことを本末転倒しないように語った。

□ 3月9日(木) コリント一 2章

パウロは福音のみが人類を救うるメッセージであることを確信して、主イエス・キリストとその十字架のみを説いた。彼が何よりも頼りとしたものは、神の御霊の力であった。

□ 3月10日(金) コリント一 3章

パウロは福音の本質は、神の知恵である十字架のことばにあることを提示する。土台-キリスト-はすでに据えられている後はこの土台の上に建て上げるだけです。

□ 3月11日(土) コリント一 4章

私たちは神の奥義の管理者です。管理者に必要なことは忠実であること。キリストのしもべです。高慢であってはならない私たちもそれに見習うべきです。

ろ ば No. 1805
2017年 3月 5日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ16:18-19

わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てて。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。

私たちは教会を、キリストの教会と言うように、キリストを抜きにしては考えることは出来ません。イエスはペテロの告白の上に、教会を建てると言われたのです。

私たちは教会をどう捕らえているのでしょうか。教会の活動を考える上で、このことは大変に大事です。イエスの弟子たちはどう考えていたか。まだ彼らに、私たちが言う教会と言う認識はなかったと理解しますが、弟子たちが一つの群れを形成していたことは確かであり、その中心はイエスであったことも確かでしょう。それではイエスはどう考えておられたのでしょうか。私はイエスの思いの中にはユダヤ教の会堂、いわゆるシナゴグがあったのではと思っています。イエスは安息日には会堂

に入られて礼拝に参加され、聖書を朗読されています。私にはモーセ以来、人々が神としっかり関わる会堂は、イエスにとっても信仰の継承の大事なところであったと考えるのです。しかし、そこではイエスは受け入れられませんでした。その信仰の継承をユダヤ教の会堂には見いだすことが出来なかった。それだけではないイエスを異端者として排斥したのです。インマヌエルとしてこられたイエスを受け入れることができなかったそこに何があったか。それこそ今日の教会で、しっかりと受け止められなければならないことではないかと思っています。ユダヤ教会堂で大切なのは伝承の継続でした。

私は、それは私たちにも、受け継ぐべき大事な伝承であると思っていますし、その教えを私もしっかりと語ってきました。申命記6章の主が命じられた戒めです。私は常に、私たちの信仰の第一は聖書の冒頭の言葉に生きることだと語ってきましたそれは申命記の戒めにおいても然りです。けれども、その戒めに忠実であると表明してきたユダヤ人たちが、それを自分たちの生き方に合わせてきたところに問題は起こりました。

主のみ言葉は絶対無比です。私たちはしっかりそこに立つのです。イエスはその大切なことをユダヤ人に、祭司、律法学者らに語ってこられました。その思いは彼らには届くことなく十字架にかけられました。それは今日の私たちもまた、しっかりと聞かねばならない、大切なことだと思っています。イエスはそれを教会に託されたのだと理解しています。

私もペテロは教会の首であると信じています。それはペテロという人物ではなく、彼のイエス告白を聞かれて「この岩の上に教会を建てる」と言われた出来事によるのです。私たちは今日このことを、どこまで受け継いできているのでしょうか。私たちはこのキリスト教会を、どのように心得ているかをしっかりと吟味させていただかねばならないのではなからうかと思っています。キリストなしには、教会は成立しません。それは当然のことだと言われるでしょうが、現実にはキリストなしの教会が存在します。イエスは「あなたはペトロ」と言われました。その言葉は「岩のように堅い心」を意味する言葉で、確たるイエス告白こそが、教会がよって立つところであり、私たちはしっかりとそこに立っているかを問われるのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
ヨハネ11:1-46 イエスの涙

イエスがラザロをの死を悲しんでいる人たちの様子に「心に憤りを覚え、興奮」されたとある言葉にうちに、私は、人が死とどのように向きあっているかと言うことの、ほんとうに大事な点を指摘だれていることに気づかせられるのです。同時のユダヤの風習の中に、大仰にその悲しみを表すことが、ともに悲しみを共有することだと理解されていましたが、それと対比してイエスの重い激しさに圧倒されます。

イエスのこの激しい感情の動きに、人間的同情や感情以上のその言葉通りの激しい怒り、憤りを見るのです。イエスは人類の「最大の敵である死」がこの世界を支配している現実を感じ取られたのです。イエスは「戦いに挑む闘士」として墓に向かわれたのでしょう。「わたしは」復活であり、命である」と言われる主が「はらはらと涙をこぼされた」のです。イエスの深い同情と苦悩の涙には、神の栄光を表される力を見るのです。



Read God's Word.